

## 平成25年度「英語教育実施状況調査」の結果概要

(公立中学校・中等教育学校前期課程)

### 1. 生徒の英語力や学習到達目標について ≪「提言1」に関すること≫

- (1) 中学校第3学年に所属している生徒のうち、英検3級以上を取得している生徒は16.5%。取得はしていないが英検3級以上相当の英語力を有すると思われる生徒は15.7%で、合わせると32.2%となり、平成24年度調査結果より1.0ポイント増加している。
- (2) 「CAN-DO リスト」の形で学習到達目標を設定している学校は17.4%で、その内66.8%の学校では達成状況を把握している。平成23年度調査結果より「CAN-DO リスト」の形で学習到達目標を設定している学校は9.9ポイント増加、達成状況を把握している学校は6.4ポイント増加している。
- (3) 「話すこと」や「書くこと」の能力を評価するスピーキングテストやライティングテスト等を実施している学校は、第1学年では93.1%、第2学年では93.7%、第3学年では92.3%となっている。

### 2. 英語を使用する機会の増加について ≪「提言3」に関すること≫

- (1) 授業に占める英語を用いた言語活動の時間は、「おおむね言語活動を行っている」と「半分以上の時間、言語活動を行っている」を合わせた教員は、第1学年では52.5%、第2学年では47.0%、第3学年では43.1%となっている。
- (2) 中学校における英語の授業で活用するために雇用等しているALTの総数は6,548人。ALT総数に占める割合は、JETプログラムによるALTが34.7%と最も多く、次いで、請負契約によるALTが22.8%。JETプログラム以外で自治体が独自に直接雇用しているALTは19.1%、派遣契約によるALTは16.3%となっている。
- (3) 中学校で英語の授業を担当している教員のうち正規の外国人教員は8人、外国人非常勤講師は7人。

3. 英語担当教員の英語力・指導力、学校・地域における戦略的な英語教育改善について ≪「提言4」に関すること≫

- (1) 英語担当教員のうち、英検準1級以上又はTOEFLのPBT 550点以上、CBT 213点以上、iBT 80点以上又はTOEIC 730点以上を取得している者は、全体の27.9%（平成24年度27.7%）。当該試験の受験経験のある者は、全体の74.3%（平成24年度75.4%）となっている。
- (2) 授業における英語担当教員の英語使用状況は、「発話をおおむね英語で行っている」と「発話の半分以上を英語で行っている」を合わせた教員の割合が、第1学年では44.5%、第2学年では42.9%、第3学年では41.2%となっている。
- (3) 都道府県・指定都市が主催した英語担当教員に対する研修の実施状況は、平成24年度に国内研修を実施した教育委員会が47.8%（平成23年度26.9%）、海外研修が6.0%（7.5%）となっている。